

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	221	3年	前期	看護学科	必修	小児看護方法論 Child Health Nursing Methods	30	1
担当教員								
藤原 紀世子	豊田 ゆかり	石川 桂						
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
○	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
○	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
○	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
病院・施設や在宅等において、さまざまな健康レベルにある小児とその家族（同胞を含む）の、権利を尊重した看護実践のために必要な基礎的知識と技術を身につける。また、健康障害をもつ子どもの、発達課題の達成やセルフケア能力の向上など、成長発達を踏まえた看護を身につける。								
到達目標（授業目標）								
1. 小児の健康レベルに応じた看護を実践するために、必要な基礎的知識と技術について説明することができる。								
2. 小児とその家族(同胞を含む)の最善の利益を考慮した看護について説明することができる。								
3. 健康障害を持つ小児の病態、成長・発達、家族の状況から、必要な看護を考え記述することができる。								
回								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	健康障害が小児と家族に及ぼす影響と看護：病気に対する小児の理解と説明、健康障害に伴う小児と家族のストレスと対処に関する看護について講義する。：藤原 紀世子							
2回	急性期にある小児と家族への看護（1）：急性期の特徴、小児によく見られる発熱、嘔吐、下痢、脱水、呼吸障害などの症状と看護について講義する。：藤原 紀世子							
3回	急性期にある子どもと家族への看護（2）：救急救命処置を必要とする小児と家族への看護を講義する。：藤原 紀世子							

4回	急性期にある小児と家族への看護(3)：小児の手術の特徴、周手術期における小児と家族への看護、小児の痛みの表現方法と痛みの緩和に向けた援助について講義する。：藤原 紀世子
5回	急性期にある小児と家族への看護(4)：急性期にある小児と家族の看護(循環器疾患、消化器疾患、運動器疾患)について講義する。：藤原 紀世子
6回	急性期にある小児と家族への看護(5)：急性期にある小児と家族の看護(感染症)について講義する。：藤原 紀世子
7回	慢性期にある小児と家族への看護(1)：慢性期の特徴、慢性期にある小児と家族の看護(代謝性疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患)について講義する。：藤原 紀世子
8回	慢性期にある小児と家族への看護(2)：慢性期にある小児と家族の看護(血液・造血管疾患、悪性新生物、腎・泌尿器系疾患)について講義する。：藤原 紀世子
9回	慢性期にある小児と家族への看護(3)：慢性期にある小児と家族の看護(染色体異常、神経疾患、感覚器疾患)について講義する。：藤原 紀世子
10回	入院や外来などの小児を取り巻く環境における看護：入院中の小児と家族の看護、外来における小児と家族の看護について講義する。：藤原 紀世子
11回	障害をもつ小児と家族の看護：医療的ケア児の現状、在宅療養中の環境と看護の役割、障害のある小児と家族の社会的支援について講義する。：豊田 ゆかり
12回	ハイリスク新生児と家族の看護：ハイリスク新生児の特徴と看護、家族関係促進への援助について講義する。：藤原 紀世子
13回	成人移行期にある小児と家族の看護：成人への移行期にある健康障害をもつ小児と家族の看護、自立支援について講義する。：藤原 紀世子
14回	小児看護特有の技術：コミュニケーション・バイタルサイン測定・計測・検査を受ける小児の看護技術について演習を行う。：藤原 紀世子、石川 桂
15回	小児看護特有の技術：コミュニケーション・バイタルサイン測定・計測・検査を受ける小児の看護技術について演習を行う。：藤原 紀世子、石川 桂
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

定期試験(80%)、事前学習の取り組み状況及びレポート(20%)で評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	小児看護対象論で使用した、中野綾美「ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 第6版」(MCメディカ出版) 臨床病態学Ⅲで使用した、奈良間美保「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版」(医学書院) 浅野みどり「根拠と事故防止からみた 小児看護技術 第3版」(医学書院)
参考図書等	浅野みどり・杉浦太一・大村知子編集「発達段階からみた 小児看護過程+病態関連図 第4版」(医学書院)

授業時間外の学習について(授業準備のための指示)

技術演習は、少人数のグループワークによる予習を行う。

関連科目

前科目	158	臨床病態学Ⅲ	219	小児看護対象論	220	小児保健	149	生涯発達心理学(共)	232	家族看護論
後科目	222	小児看護学実習	249	総合実習	241	看護アセスメントⅡ				

実務家教員

看護師(医療機関)	藤原 紀世子	石川 桂							
保健師(行政機関)	豊田 ゆかり	石川 桂							

備考	授業はスケジュールの都合上、変更する可能性があります。					